

# 一目で分かる 平成24年度政策評価結果の概要

## 政策の評価

政策・施策の目的が A：十分に達成されている B：かなり達成されている  
C：そこそこ達成されている D：あまり達成されていない  
E：達成されていない

大学、学校教育、景観、くらしの水の4政策がA評価となりました。

○ 政策27項目の評価結果の内訳

A	B	C	D	E	計
4 (14.8%)	19 (70.4%)	4 (14.8%)	0	0	27

- ◇ 大学については、客観指標としている市内学生数の全国学生数に占める割合が a 評価となり、市民生活実感評価の「大学のまちとしての学びの環境の充実」と「大学の研究成果の高さ」に関する設問の回答結果が a 評価であったことによります。
- ◇ 学校教育については、客観指標としている「小中一貫教育校」または「小中一貫教育推進校」に指定した中学校ブロックの割合」や「総合支援学校高等部卒業生の企業等就職者数」が a 評価となったほか、市民生活実感評価の回答結果が全体として b 評価と、かなり肯定的に評価されていたことによります。
- ◇ 景観については、客観指標としている「三山森林景観保全・再生ガイドラインに基づく森林整備面積」や「景観づくりに取り組む地域数」が a 評価となり、市民生活実感評価の「身近にある誇りや愛着を持てる町並みや風景」や「自然風景の魅力」に関する設問の回答結果が a 評価であったことによります。
- ◇ くらしの水については、客観指標としている「雨水整備率（10年確率降雨対応）」や「平成16年記録的豪雨時の河川浸水被害箇所解消率」など、5つの指標中4つが a 評価となったほか、市民生活実感評価の「上下水道の安全性」や「大雨時の浸水対策」に関する設問の回答結果が a 評価であったことによります。

## 施策の評価

○ 施策114項目の評価結果の内訳

A	B	C	D	E	計
22 (19.3%)	69 (60.5%)	20 (17.5%)	3 (2.6%)	0	114

- 評価結果が特に高かった施策（客観指標評価、市民生活実感評価が共に a 評価）  
ごみを出さない循環型社会の構築（0103）、京都で学び、住み続けたいなる「大学のまち」の実現（1101）、市民だれもが参加できる「学びのネットワーク」の拡充（1901）、地下鉄の魅力向上とまちづくりへのさらなる活用（2004）、山紫水明の自然景観の保全（2201）、市民とともに推進する景観まちづくり（2205）、健やかな生活が実感できる緑化の推進（2502）、水辺環境の整備（2706）の8施策でした。
- 評価結果が低かった施策（総合評価結果がD評価）  
創造を続ける南部地域のまちづくり（2103）、市内各地における個性豊かで魅力的なまちづくり（2104）、京都らしいすまい方の継承（2401）の3施策でした。  
創造を続ける南部地域のまちづくりでは、らくなん進都への企業立地が、市内各地における個性豊かで魅力的なまちづくりでは、地区計画、建築協定及び景観協定の締結数増加に向けた取組が、京都らしいすまい方の継承では、平成の京町家の普及が、それぞれ主な課題となっています。